

# 埼玉版スーパー・シティプロジェクト

## 第1弾エントリー市町村のプロジェクト発表 次 第

○13:00～13:03 開会の挨拶【知事】

○13:03～13:58 プロジェクト発表

- ①熊谷市 【総合政策部 企画課 スマートシティ担当副参事 竹村 英紀】
- ②秩父市 【市長室 地域政策課 次長 山田 省吾】
- ③入間市 【市長 杉島 理一郎】
- ④和光市 【市長 柴崎 光子】
- ⑤久喜市 【市長 梅田 修一】
- ⑥毛呂山町 【まちづくり整備課 課長 山口 貴尚】
- ⑦小川町 【町長 松本 恒夫】
- ⑧鳩山町 【政策財政課 課長補佐 松ノ元 弘毅、副主幹 黒田 裕介】
- ⑨横瀬町 【副町長 井上 雅国】
- ⑩美里町 【町長 原田 信次】
- ⑪さいたま市【都市戦略本部 未来都市推進部 副理事 浜崎 宏治】

○13:58～14:00 閉会のコメント【知事】

# 埼玉版スーパー・シティプロジェクト 第1弾エントリー市町村

## 小川町

都市機能誘導区域及び道の駅周辺地域

学校跡地を活用した住宅団地再生と水辺空間の有効利用と併せた道の駅の再整備により、地域の魅力向上と安心・安全な暮らしの実現を目指す。

## 横瀬町

町全域

遊休資産等を活用し町の中心に新たな賑わいをつくることで、カラフルタウン（多様な人が多様な幸せ・ライフスタイルを実現できる町）の実現を目指す。

## 美里町

まちづくり拠点地区(中心拠点)

生活・経済活動の中心となる機能の集約により、町民の生活と自然環境が共生したコンパクトで“美力”的な拠点の構築を目指す。

## 熊谷市

市全域

熊谷スポーツ文化公園と熊谷駅の二つの核をつなぎ回遊性向上をはかり、にぎわい創出と市民・来街者が快適に過ごせる暑さに対応したまちを目指す。

## 久喜市

南栗橋8丁目周辺地区

官民学連携によるまちづくりを進め、様々な都市機能を徒歩圏内に集積させるとともに、歩くことに魅力を感じられる地区の形成を目指す。

## さいたま市

美園地区

エリアマネジメントによる地域コミュニティ活性化やデータを活用したMaaSやヘルスケアなどの推進、区域内の電力融通によるレジリエントの高いまちづくりを進め、美園地区から市全域展開を目指す。

## 秩父市

市全域

秩父市大滝地域で実施している内閣府交付金事業「Society5.0事業」を起点に、山間地域における物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」の普及を目指す。

## 鳩山町

鳩山ニュータウン地区

2つの複合施設の機能を強化・拡充するとともに、地域公共交通の見直しによりコンパクト+ネットワークが実現したまちを目指す。

## 毛呂山町

町全域

都市公園・空き家空き店舗を拠点とした地域の交流及び活性化と、スマート技術を活用した利便性向上により、well-being（幸福度）の高いまちを目指す。

## 和光市

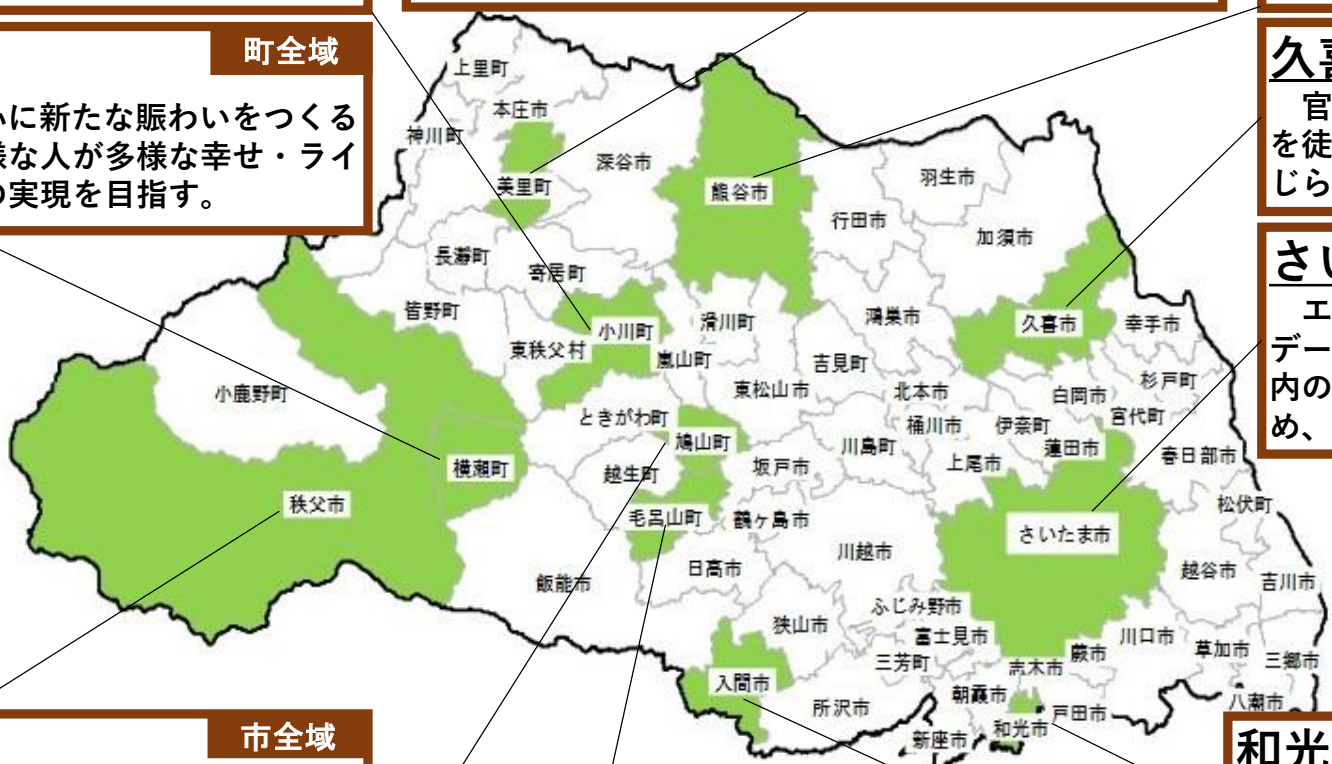
市全域

新たに和光市駅北側の交通拠点と北IC周辺の産業拠点を整備するとともに、和光版MaaSを構築し、これらを含む市内の各拠点が有機的に結ばれた都市づくりを目指す。

## 入間市

市全域

地域拠点施設の整備による地域コミュニティの再構築と、ICTを活用した高齢者向け交通と福祉の連携により、自助・互助・共助・公助のバランスのとれたまちを目指す。



熊谷スマートシティ

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少による地域内消費の減退や生産年齢人口の減少による地域経済の縮小が懸念され、まちなのにぎわい創出や地域資源を活用したまちづくりが求められている。</li> <li>・暑さに対応したまちとして、市域全体に展開可能なサービスと来街者向けにスポーツ健康まちづくりと連携したスマートサービスの提供により誰でも快適に過ごせるまちづくりを目指す。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内有数の暑さによる住環境の悪化、日常的な外出意欲の低減</li> <li>・イベント時等、熊谷スポーツ文化公園周辺の交通渋滞、公共交通機関利用時の長い待ち時間</li> <li>・スポーツ観戦前後のまちなかの回遊性</li> </ul>

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	スポーツを核とした魅力向上によるまちなかの活性化	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊谷スポーツ文化公園を核とした、まちなのにぎわい創出、魅力の向上</li> <li>・ビフォー・アフタースポーツを楽しむまちづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツエンターテインメントサービス</li> </ul>
スマート	スマート技術を活用して、暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまちを実現	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱中症対策、まちなかの回遊性向上を図る行動変容アプリの展開</li> <li>・環境負荷を抑えた熊谷版スマートハウスのモデルを構築</li> <li>・熊谷駅・熊谷スポーツ文化公園間の移動の円滑化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートホーム</li> <li>・蓄電池 ・太陽光発電</li> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・自動運転技術</li> <li>・データ利活用</li> <li>・スマートパーキング</li> </ul>
レジリエント	暑い中でも健康で快適に過ごせるまちの形成	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートハウスを連携させたスマートタウンエリア内の電力融通によるレジリエント性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーエリアマネジメント</li> </ul>



# 熊谷スマートシティ



熊谷スマートシティ

熊谷スポーツ文化公園アクセス向上策案  
(自動運転バス隊列走行等検討)

①ラグビーロード  
経由ルート

②スポーツ公園通り  
経由ルート

③県道・国道  
経由ルート

検討施策2  
公園内スマートパー  
キング導入による交  
通流のコントロール

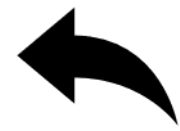
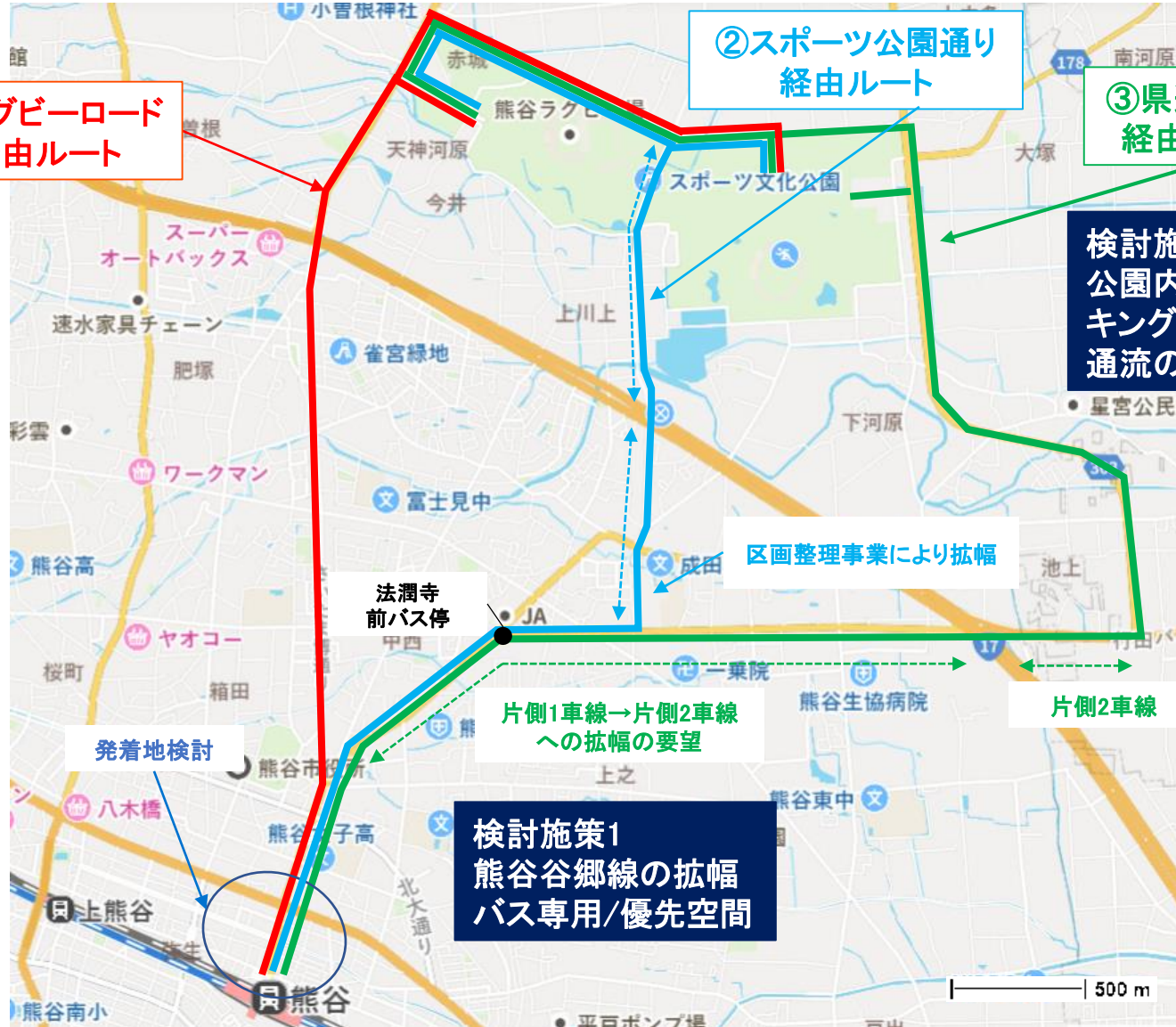
区画整理事業により拡幅

法潤寺  
前バス停

片側1車線→片側2車線  
への拡幅の要望

発着地検討

検討施策1  
熊谷谷郷線の拡幅  
バス専用/優先空間



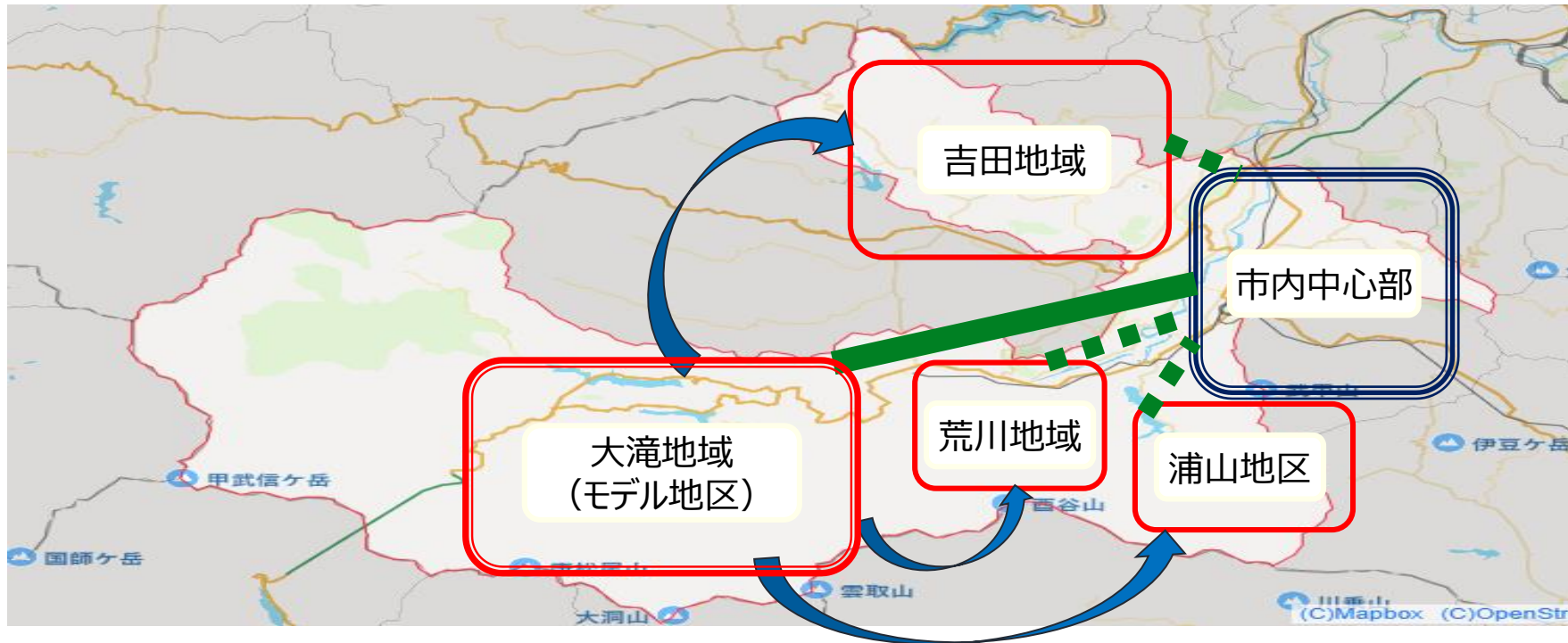
## 秩父市移動支援プロジェクト～未来へ紡ぐ結いまち～

<b>概要</b>	「先端技術を活用し、生活交通・物流等のインフラ維持向上を図ることで快適な社会を実現する取組(Society5.0事業)」について、秩父市大滝地域を起点として市域全体へ発展させ、中心市街地と各地域を結び、「ヒトとモノ」の移動の困難さに着目した山間地域における物流・公共交通ネットワーク「秩父モデル」として普及させる仕組みの構築を目指す。			
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の高齢化により、災害時や日常生活において生活交通・物流等の生活インフラの維持が難しくなっている。</li> <li>・特に物流分野の採算性や維持確保は課題となっており、山間地域においては、将来的に物流がなくなる可能性も大きくある</li> <li>・若年層を中心とした都市部への人口流出による人口減少が課題。</li> <li>・医療分野の受診が困難となる状況を防ぐために、遠隔医療等の技術導入の必要性が高まっている。</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
<b>コンパクト</b>	地域拠点を中心としたコンパクトなまちづくり	<b>中～長期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の交通や物流の結節点を拠点としたコンパクトな拠点づくりを実現(地域の道の駅などを想定)</li> <li>・地域の総合支所を拠点とした災害時にも強いまちづくり</li> <li>・共同配送の実現により住民の物流網の最適化を目指す</li> <li>・貨客混載の実現により住民の移動手段と物流網を融合したコンパクトな仕組みを目指す</li> <li>・地域間を公共交通機関に加え、EVを活用したカーシェアリングなど新たな選択肢を増やし、人々が移動しやすいコンパクトな街づくりを目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先端産業(ドローン・UGV)などに関する産業創出</li> <li>・5G(地域の高速通信を確保するための支援)</li> <li>・EVカーシェアリング事業</li> </ul>
<b>スマート</b>	ヒトとモノの動きをIoT技術で融合し、最適化と利便性向上を目指す仕組みづくり	<b>短～中期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な位置情報の収集や提供の仕組みを、共通インタフェースでヒトやモノの動きを可視化し、分析情報、提供するシステムを国の交付金事業を活用し「秩父版ダッシュボードシステム」として開発し、活用を目指す</li> <li>・上記のシステムと連携する観光型MaaS 基盤構築・運用実証を目指す。MaaS 基盤の構築により、自家用車を中心とした観光客の流れを公共交通の利用へ転換させ、観光施設と連携を図り、新型コロナウイルス収束後も見据えた先進的な取り組みとする</li> <li>・医療難民を維持する為に遠隔医療を導入し、地域医療サービスの環境整備を実現する</li> <li>・既存の物流網とドローンや自動走行技術を組み合わせることにより、住民ニーズに合った速達性のモデルづくりを構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光型MaaSに関する連携</li> <li>・自動走行技術(域内交通)</li> </ul>
<b>レジリエント</b>	平常時でも災害時でも活用できる脱炭素社会に向けた新しい仕組みづくり	<b>中～長期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EVの蓄電池機能を有する利点をいかし、災害時の電源確保も含めたEVカーシェアリングを平常時に導入して、災害時にも活用できる環境を整備</li> <li>・賑わい拠点にEV電力とドローンポートの結節点となる拠点整備を積極的に導入</li> <li>・EVIに係る車両や充電設備については民間事業者と連携したシェアリングの仕組みを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・蓄電池(EV)</li> <li>・シェアリングを促進する為の協力事業者(地元企業や関係企業)</li> </ul>



## 【参考】埼玉県秩父市について

- 大滝地域のモデルを今後秩父市域全体に発展させていくことを想定
- 具体的な拠点や場所については、現時点では確定していない。本取り組みを具体化する段階で調整していく



Copyright©2021 City of CHICHIBU All Rights Reserved.



# 【参考】秩父市大滝地域について

- 既に進めているSociety5.0事業については**大滝地域を中心に実施**。大滝地域のモデルを他地域につなげていきたい
- 「道の駅大滝温泉/大滝総合支所を中心としたエリア（落合・神岡地区）」を拠点としてドローン配送の実現を目指す



Copyright©2021 City of CHICHIBU All Rights Reserved.





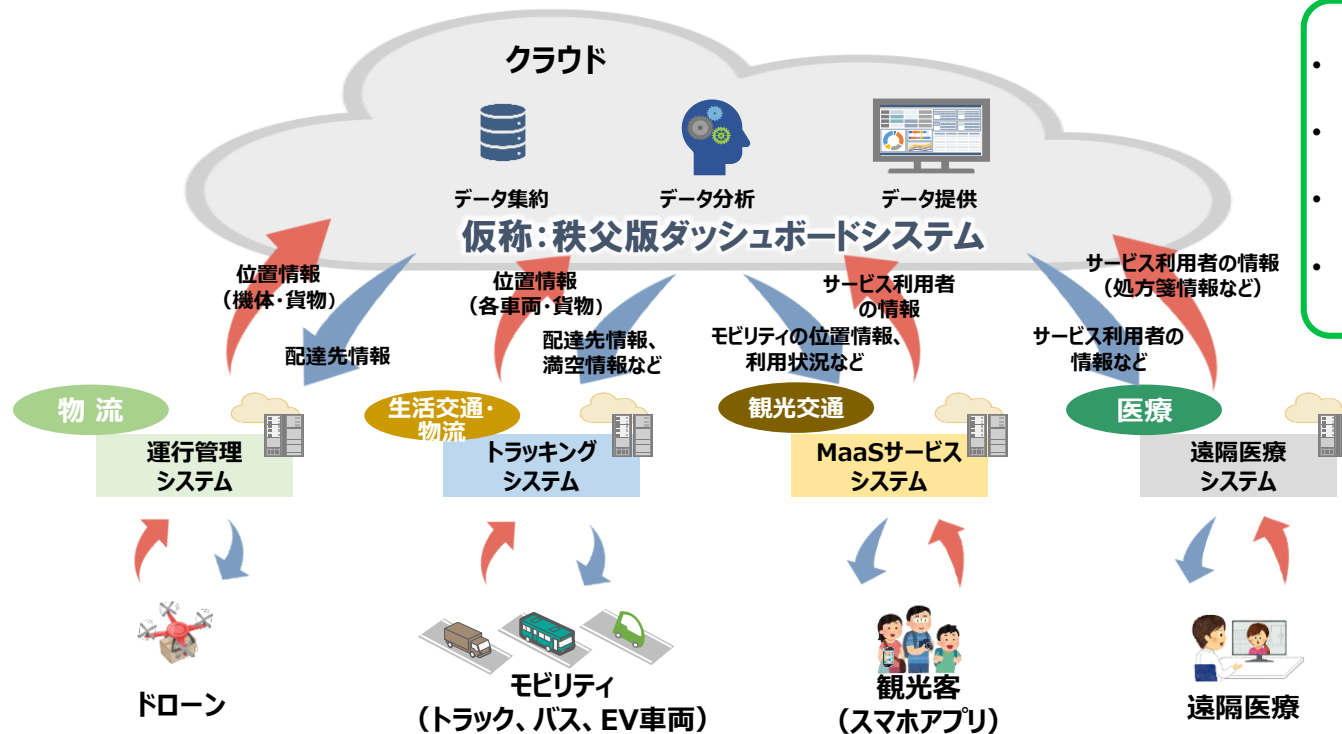
# 【参考】Society5.0事業内容イメージ



秩父市のヒト・モノ・モビリティの移動をIoT技術で融合し、生活交通・物流の最適化を実現するプロジェクト  
遠隔医療、ドローン物流、貨客混載、観光MaaS等の新技术により未来の秩父を創りだす取り組み

# 【参考】秩父版ダッシュボードシステムとは

- ・ ヒト・モノ・モビリティの移動情報を共通インターフェースで集約・分析・情報提供する「サービス統合共通基盤システム」
- ・ 位置情報解析、プライバシーデータ秘匿処理、交通・物流量に応じた収益管理機能の実装を目指し、現在開発中



- 『ダッシュボードシステムのポイント』
- ・ 多様な位置情報の収集・提供の仕組みを共通インターフェースで定義。
  - ・ 共通化 (API) することで既存のアプリケーション/システムと容易に接続が可能
  - ・ 多様な情報をサービス間で相互に流通させることで、複数サービスを統合可能
  - ・ スーパーシティ構想の日本初の実装モデルとして全国に先駆けて開発・サービス提供



# 【参考】Society5.0事業のスケジュール

- **5年間の事業。今年度は引き続き「計画フェーズ」。**
- 今後の実装に向けたニーズ調査等を実施しながら各分野別の実証実験等を実施する。

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
<p>▲【計画フェーズ】 生活交通・物流等の機能、サービスを有機的につなげていくための全体設計とニーズ調査</p>	<p>▲【計画フェーズ】 各分野別の実証実験と機能開発による個別最適化の検証と技術検証（年度初めは引き続きニーズ調査も実施）</p>	<p>▲【実証フェーズ】 各分野別の実証実験やプレサービスによる事業性の評価 ※災害時のドローン配送を実施</p>	<p>▲【実証期～実装期】 各分野別のサービス統合による全体最適化 ※システムのプレ運用、プレサービス開始</p>	<p><b>本格実装開始</b></p>

3つの事業に係るニーズ調査、技術課題の整理を実施。  
⇒課題等については会議の中で意見交換を実施。

中間年（2022年度）で、一部の事業で社会実装することが求められている。

最終年には予定する事業が本格的に社会実装することが求められている。

入間市版スーパーシティ構想

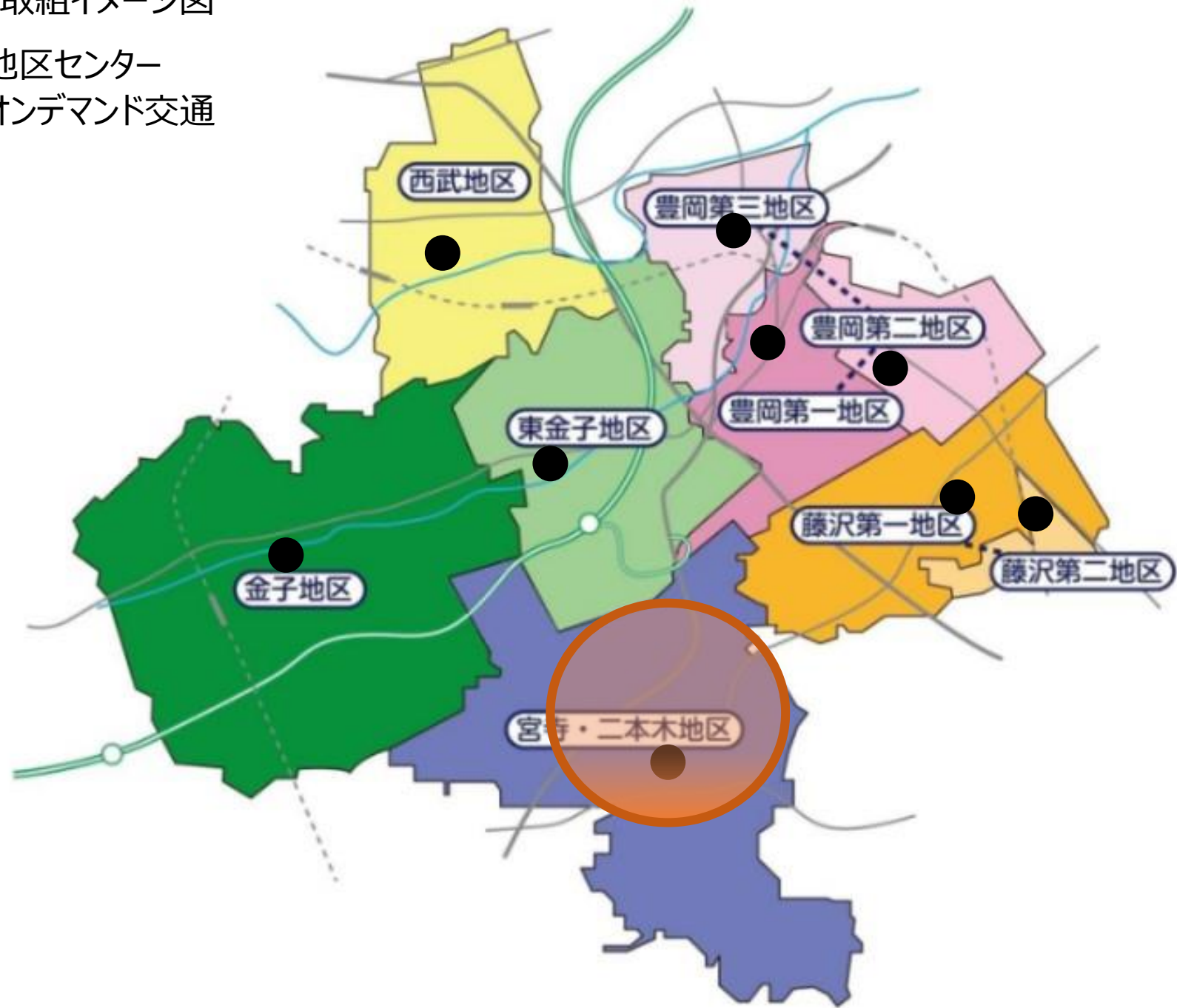
概要	地域の拠点として整備する地区センターによって、地域コミュニティの再構築を図るとともに、交通ネットワークの強化により高齢者の外出機会を創出することで、すべての市民が地域の中で社会の一員としてともに生活していける、自助・互助・共助・公助のバランスのとれたまちを目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進展等による地域コミュニティ力の低下</li> <li>・高齢化の進展による税収の減少と社会保障費の増大</li> <li>・東日本大震災以降の市民の自然災害への不安</li> </ul>

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域における総合窓口・地域コミュニティの拠点の構築	中期 (R6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内9地区に、基本的な機能(福祉総合相談窓口機能、自治振興支援機能、防災拠点機能など)が集約された地区センターを整備し、地域の拠点施設とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI相談システム</li> </ul>
スマート	ICT技術を活用した高齢者の外出機会の創出	長期 (R10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド交通の導入による外出促進</li> <li>・移動・健康データを元にした交通と福祉の連携施策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンデマンド交通車両</li> <li>・自動運転技術</li> </ul>
レジリエント	災害被害に対するレジリエントの強化	短期 (R4) ～長期 (R10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電等で貯蓄した電力(EV等)を非常時に融通し、地域のレジリエンスを向上する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄電池</li> <li>・太陽光発電</li> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・EVシェア</li> </ul>



# 入間市取組イメージ図

- : 地区センター
- : オンデマンド交通



和光市版スーパーシティ構想

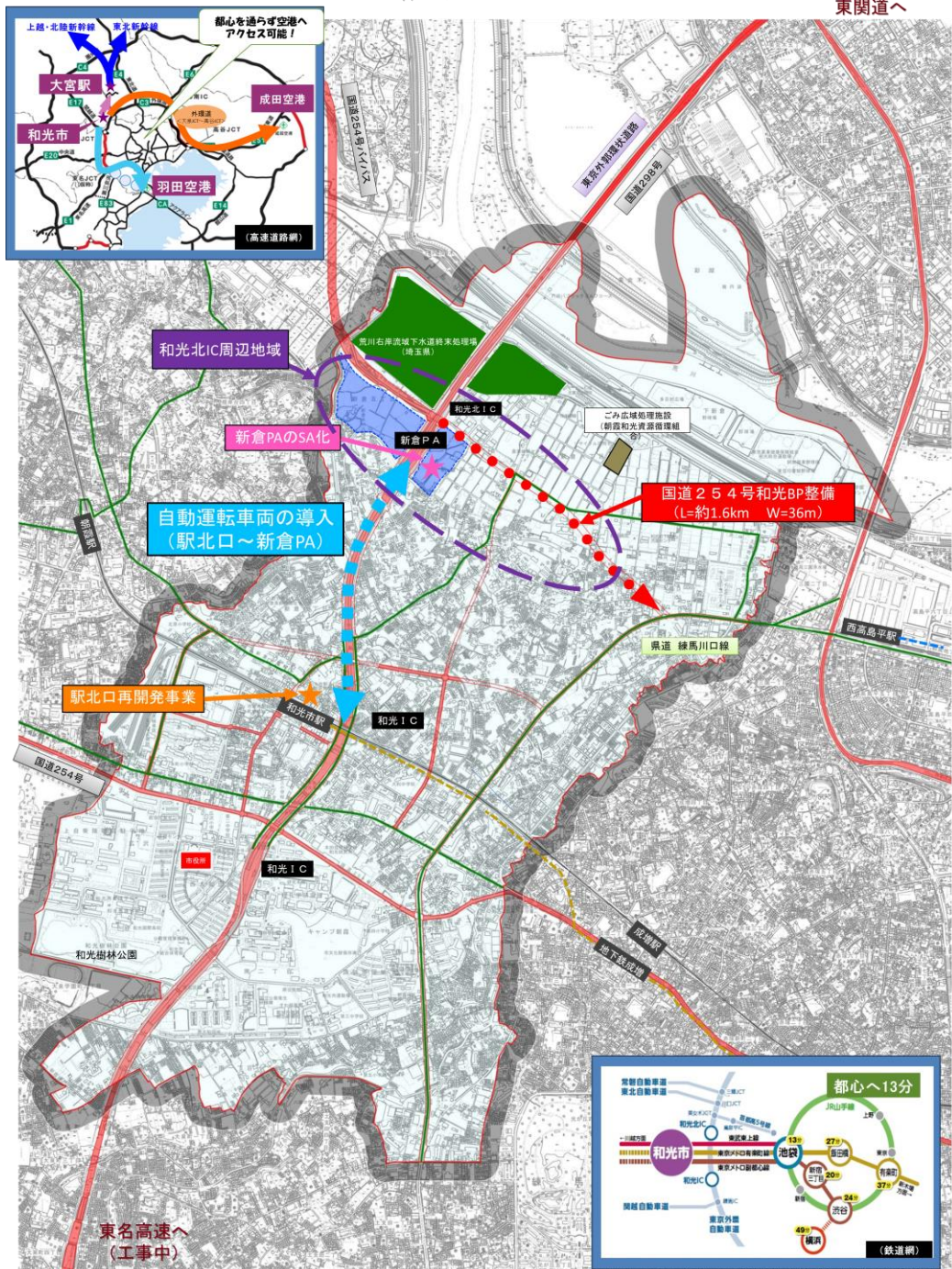
概要	<p>新たに駅北側の交通拠点と北IC周辺の産業拠点を整備するとともに、これらの拠点を結ぶ自動運転サービスと既存の公共交通ネットワークを連結させスマート交通システム(和光版MaaS)を構築し、市内の各拠点が有機的に結ばれたコンパクトで自立した都市づくりを推進する。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の進展、財政運営の悪化</li> <li>・利便性の高い地域公共交通網の整備</li> <li>・大災害への備え</li> </ul>

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな交通システムによる都市機能の集積</li> </ul>	長期 (10年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅北口の交通拠点としての機能強化に向けた再開発</li> <li>・北IC周辺地域における産業拠点の形成に向けた土地区画整理事業、新倉PAの拡張の推進</li> <li>・拠点周辺の道路網の整備</li> <li>・スマート交通システム(和光版MaaS)の構築</li> </ul>	
スマート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点間を結ぶ自動運転サービスの導入</li> </ul>	中期 (3~5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転技術の社会実験(レベル4)</li> <li>・自動運転専用レーンの設置</li> <li>・高度通信システム(5G)の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動運転技術</li> <li>・社会実験後の運営</li> <li>・高度通信技術</li> </ul>
レジリエント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な自動運転サービスに向けたエネルギー供給</li> </ul>	中期 (3~5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時における再生可能エネルギーの活用(排熱発電、太陽光発電、バイオマス発電など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新技術の提案、提供</li> </ul>



# 和光市版スーパーシティ構想

東関東へ



久喜市 南栗橋8丁目周辺地区のまちづくり ～BRIDGE LIFE Platform構想～

概要	南栗橋駅の近隣に位置する本地区において、官民学連携によるまちづくりを進めていき、生活利便性の高い魅力ある地区を形成する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少や少子高齢化が進行していく中で、本地区に移り住む方々や既に本地区周辺にお住まいの方々が、豊かで快適な生活を送れるようなまちづくりが求められている。</li> <li>・持続可能な都市の実現に向け、様々な次世代技術を取り入れたいが、市では事例が少なくノウハウを有していない。</li> </ul>

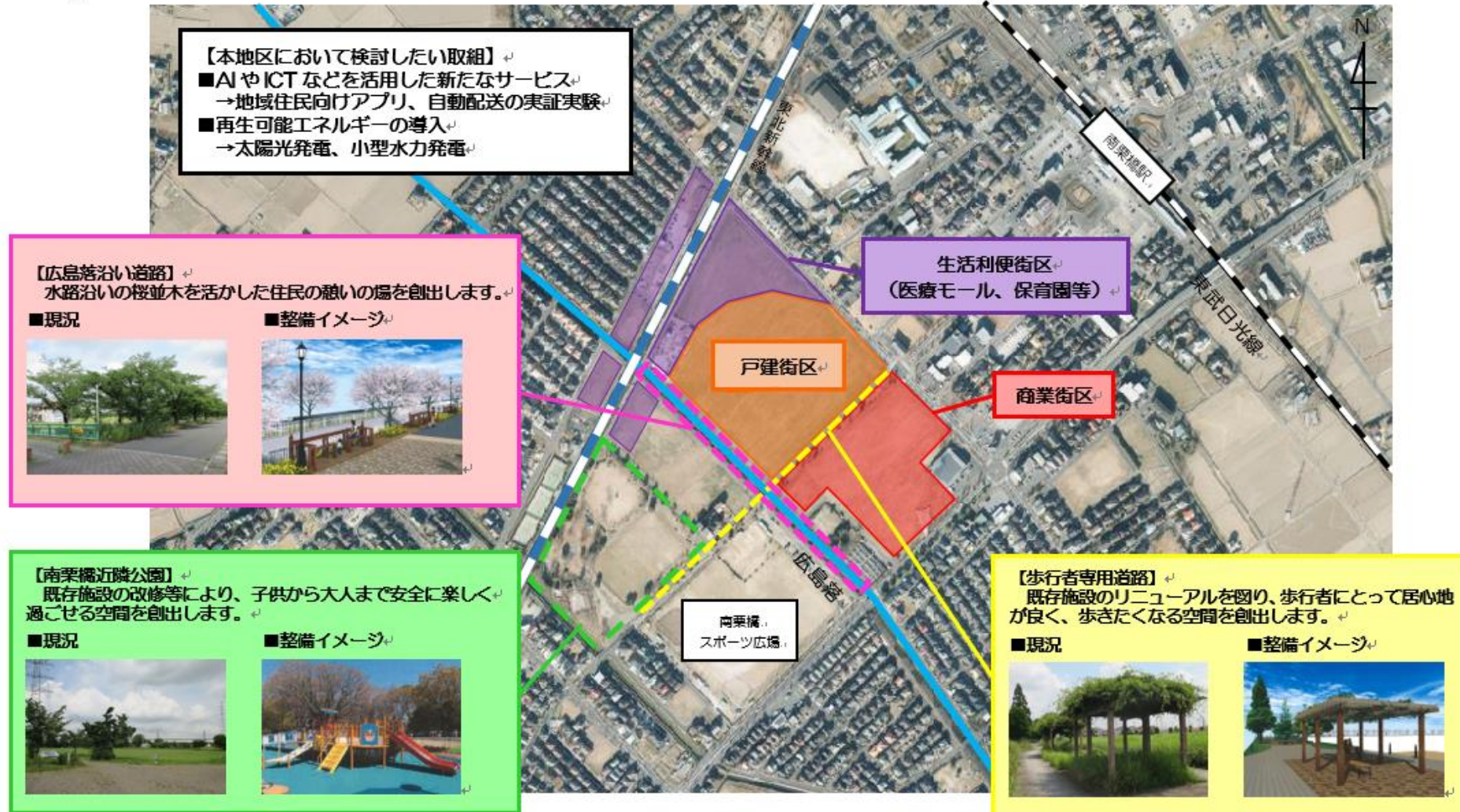
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	コンパクト・プラス・ウォークラブルなまちづくり	長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な都市機能を徒歩圏に集積させ、地域の賑わいの拠点とする</li> <li>・遊歩道及び公園のリニューアルにより、居心地が良く歩きたくなる街並みを形成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療や福祉などの施設の誘致</li> </ul>
スマート	次世代技術を活用した、日常生活に関するサービスの提供	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIやICTなどの次世代技術を活用し、日常生活の利便性向上に資するサービスを提供する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民向けアプリ</li> <li>・自動配送ロボットの実証実験</li> </ul>
レジリエント	電力供給ルートの分散化による、本地区のレジリエンス強化	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーによる発電と蓄電池を併用することで、電力供給の冗長化を図るとともに、カーボンニュートラルを推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電</li> <li>・小型水力発電</li> </ul>





## 南栗橋8丁目周辺地区のまちづくり

- 東武日光線南栗橋駅の南西約500mに位置する約16.7haの地区において、官民学連携による新たなまちづくりを進めます。
- 対象地では、「戸建街区」「商業街区」「生活利便街区」の3種類の土地利用を図り、医療や福祉、商業など様々な都市機能を集積させていきます。
- 既存の道路や公園を改修することで、居心地が良く歩きたくなる地区の形成を図ります。



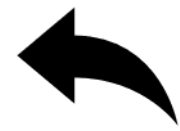
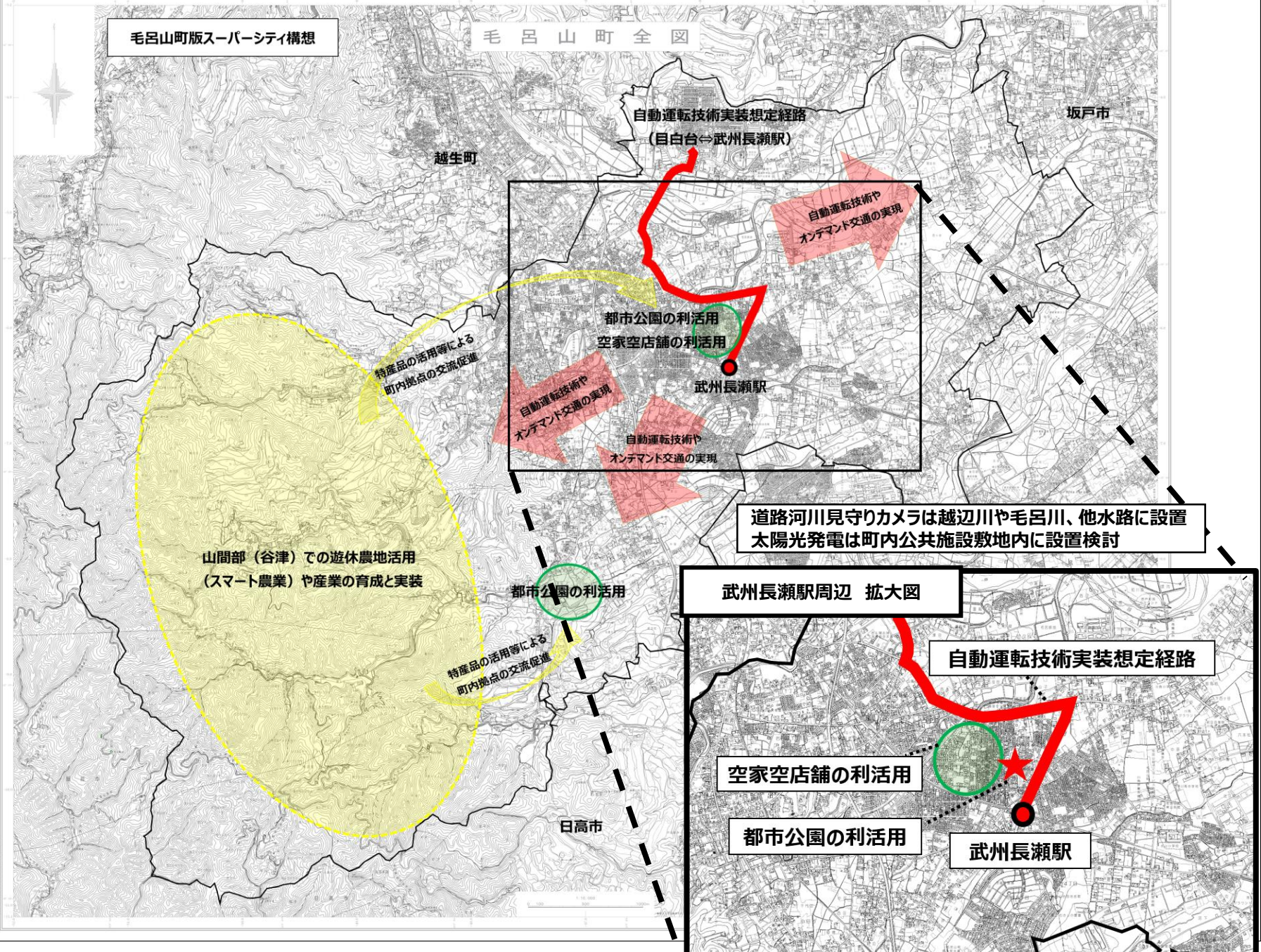
毛呂山町版スーパーシティ構想

概要	ヒトのスマート化による「暮らし・産業の高度化」を通じた町民一人一人に寄り添う“Well-Being(幸福度)の向上” ～地域活性化とスマート技術による利便性の向上～			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少・高齢化の進行</li> <li>・中心市街地の空洞化への懸念</li> <li>・ポストコロナに順応した地域経済循環を創出できていないこと</li> <li>・厳しい財政状況により行政主導型構造改革が困難なこと</li> <li>・近年の大型災害頻度の増加に対する、町の特性に適応した有事の備え</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	・都市公園・空き家空き店舗を拠点とした地域の交流及び活性化	中期 (2025年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園における地域の交流及び活性化拠点の形成</li> <li>・空き家・空き店舗の除却・利活用などにより、町内外から人々が集う地域活性化拠点を形成しポストコロナに順応した地域経済循環を生み出す</li> <li>※都市公園、空き家・空き店舗の位置は別添地図参照</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい視点で取組む都市公園活性化(P-PFI等)</li> <li>※公園活用、情報発信・広報など</li> </ul>
スマート	ヒトのスマート化を通じた安全安心の持続可能なまちづくり	中期 (2025年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート農業による遊休農地の活用及び町内産業の活性化(コンパクトとのリンク)</li> <li>・自動運転技術やオンデマンド交通等の新たなモビリティ等による町内ネットワークの強化</li> <li>・3D都市モデルを活用しヒトやモノの動き(交通流量、交通危険箇所、災害発生時の避難行動データ等)を可視化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT農業関連</li> <li>・自動運転技術やオンデマンド交通等の交通ネットワーク関連技術</li> <li>・都市OS ・3D都市モデル(各種センサー等を含む)</li> <li>・その他地域課題解決に向けた新技術</li> </ul>
レジリエント	災害被害に対するレジリエントの強化	長期 (2030年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生可能エネルギーや蓄電池により日常利用と被災停電時非常利用可能な電力分散自律化</li> <li>・町内公共施設における太陽光と蓄電池の設置によるエネルギーセキュリティの向上</li> <li>・災害時におけるケーブルテレビを活用した情報発信による安全安心の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄電池 ・太陽光発電</li> <li>・再生可能エネルギー</li> <li>・各種センサー等(水位、防犯カメラ等)</li> </ul>



毛呂山町版スーパーシティ構想

毛呂山町全図



小川町

都市機能誘導区域及び道の駅周辺地域

小川町版スーパー・シティプロジェクト～安心・安全な暮らしの実現～

概要	町内の3つの都市機能誘導区域と道の駅及びその周辺の整備を図ると共に、ゼロカーボンシティ宣言をした町として二酸化炭素排出量削減を目指す。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の高齢化と空き家・空き店舗の増加</li> <li>・観光拠点や地域住民の交流の場としての道の駅及びその周辺の魅力向上</li> <li>・避難所等への災害停電時の電力供給</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	地域の魅力を感じられると共に、利便性が高い市街地の形成	短期(3年) 中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東小川住宅団地内の学校跡地へ必要な都市機能を誘導し、地域住民が集う拠点を整備</li> <li>・道の駅の再整備と水辺deベンチャーチャレンジとの連携による道の駅から川辺へと続く遊歩道の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーマーケット等</li> <li>・キッチンカーやカフェなど営業施設</li> </ul>
スマート	ICT技術を活用した安心・安全な暮らしと脱炭素を目指した移動の確保	短期(3年) 中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT技術の活用による介護サービスや見守りサービスの提供</li> <li>・地域住民等の新たな移動手段をEVや非接触型充電機能付き電動アシスト自転車により確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉系</li> <li>・EVシェア ・EV充電器</li> <li>・シェアサイクル</li> </ul>
レジリエント	災害停電時の避難所の電源の確保	中期(5年) 長期(10年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EVからの電力供給</li> <li>・道の駅の防災機能の強化</li> <li>・太陽光発電設備等の再生可能エネルギーによる発電と供給</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EVシェア ・EV充電器</li> <li>・蓄電池 ・太陽光発電</li> <li>・再生可能エネルギー</li> </ul>



# 小川町版スーパー・シティプロジェクト ～安心・安全な暮らしの実現～



## 《東小川拠点》

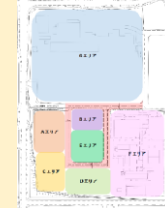
- ・団地内の学校跡地へ必要な都市機能を誘導し、地域住民が集う拠点を整備。
- ・ICT技術の活用による介護サービスや見守りサービスの提供。
- ・EVからの電力供給 等。

学校跡地の活用イメージ

東小川小学校



旧上野台中学校



## 《道の駅及びその周辺》

- ・道の駅の再整備と水辺deベンチャーチャレンジとの連携による道の駅から川辺へと続く遊歩道の整備。
- ・地域住民等の新たな移動手段をEVや非接触型充電機能付き電動アシスト自転車により確保。
- ・道の駅の防災機能の強化。
- ・太陽光発電設備等の再生可能エネルギーによる発電と供給。

太陽光発電設備



道の駅おがわまち



## 《エリア全体》

- ・EV、電動シェアサイクルの導入
- ・EVからの電力供給 等。

電動アシスト自転車



電気自動車用急速充電器



概要

半径2km圏内に3つの都市機能誘導区域と道の駅及びその周辺の整備を図ると共に、ゼロカーボンシティ宣言をした町として二酸化炭素排出量削減を目指す。

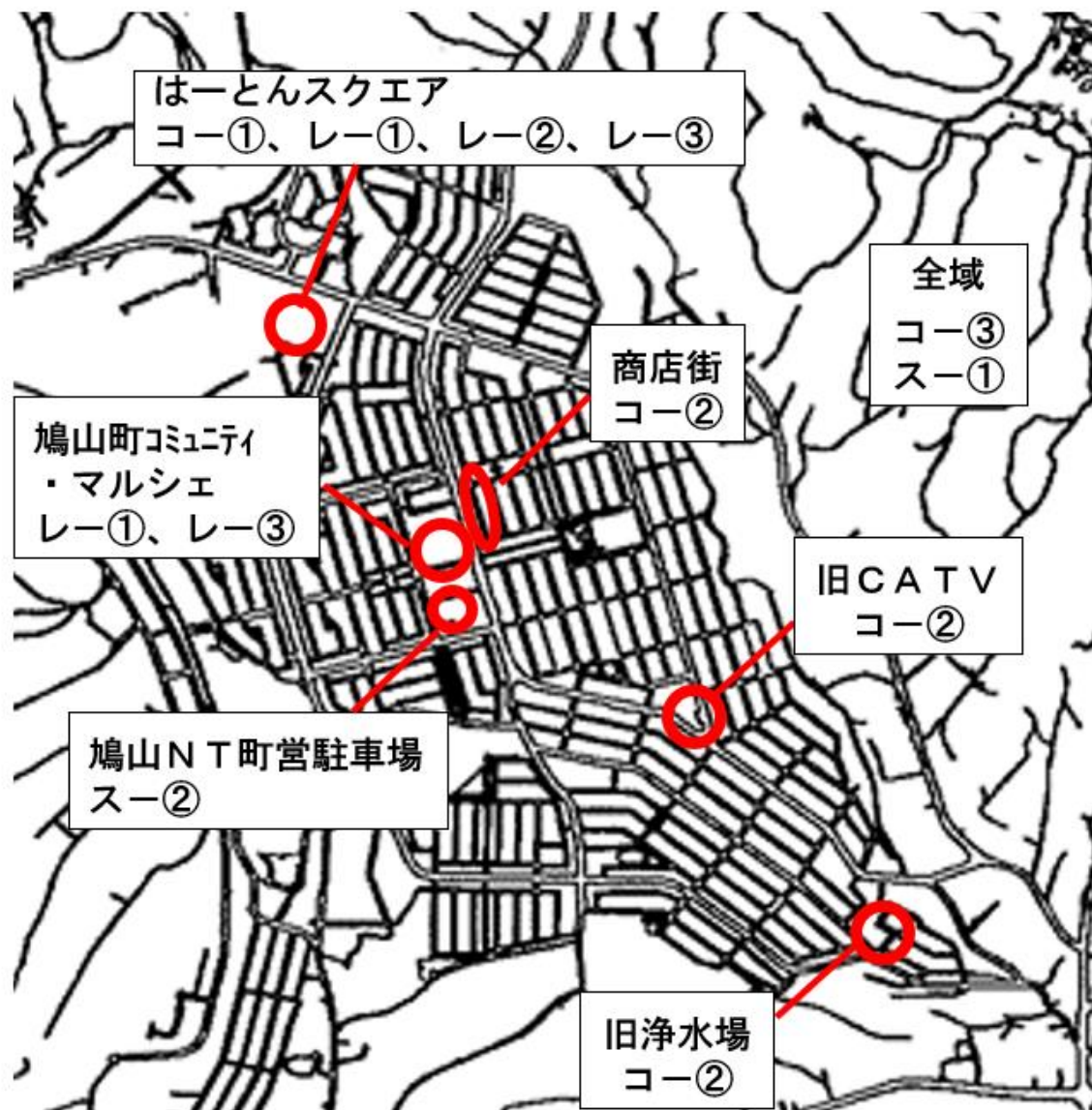


鳩山NT版コンパクトシティ+ネットワークプラン 複合施設を核とした地域拠点の構築

概要	鳩山町の人口集中地域である鳩山ニュータウン地区に整備した福祉健康・多世代活動交流エリア(通称:はーとんスクエア)及び鳩山町コミュニティ・マルシェを中心に、地域の拠点となる機能を設置・拡充して都市機能の集約化を目指す。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩山ニュータウン再活性化のため、複合施設及び周辺に必要な都市機能や働く場所を集約する必要がある。</li> <li>・交通の便向上のため、拠点へのネットワークについて、ICT技術を活用して公共交通網の有機的な連携を進める必要がある。また、安心安全なまちづくりに向けた交通死亡事故ゼロ継続に向け、高齢者等の運転免許証の自主返納を推進するため、自家用車を持たなくても移動手段が確保する必要がある。</li> <li>・安心安全のまちづくりのため、災害時にもエネルギー供給が絶えない環境を整備する必要がある。</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	複合施設を中心としたコンパクトなまちづくり	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳩山NT地域の2拠点の複合施設及び周辺に必要な都市機能や働く場所を集約し、町民が集う拠点とする</li> <li>・老朽化公共施設の利活用(跡地利用など)や商店街の再整備、サテライトオフィスやテレワーク拠点整備による働く場の創出</li> <li>・空き家等の更新による移住推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5G(テレワーク)</li> <li>・公共施設の利活用</li> <li>・商店街の再整備</li> <li>・空き家等の更新による移住促進</li> </ul>
スマート	高齢者など交通弱者の移動の確保	短期(2年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる交通モードを有機的に連携し、自由に移動ができる環境を構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI交通</li> <li>・カーシェアリング事業者の誘致</li> </ul>
レジリエント	災害時でも途絶えない電源の確保	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時でも途切れない電源を確保し、地域防災拠点とする</li> <li>・公用車の電気自動車化による災害時の電力供給環境を整備する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄電池</li> <li>・公共施設(屋上)への太陽光設置</li> <li>・EV、V2H、V2Xなど</li> </ul>



鳩山NT版コンパクトシティ+ネットワークプラン 複合施設を核とした地域拠点の構築 取組場所



- <図の説明>
- 【コンパクト】
- コー①…都市機能や働く場所を集約
  - コー②…働く場の創出
  - コー③…空き家等の更新
- 【スマート】
- スー①…AI交通
  - スー②…カーシェアリング事業者誘致
- 【レジリエント】
- レー①…蓄電池
  - レー②公共施設への太陽光発電設備
  - レー③EV、V2H、V2X



「カラフルタウン」横瀬町における賑わいづくり中心地づくりプロジェクト

概要	町内遊休資産など町主要部の施設を活用し中心地を活性化させることで、観光などで訪れる交流人口や地域や地域の人々と多様に関わる地域外の関係人口の増加、町の賑わい創出を図り、「カラフルタウン(多様な人が多様なしあわせ・ライフスタイルを実現できる町)」の実現を目指す。
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少による地域の賑わい、活力低下への懸念</li> <li>・町主要部における中心地づくり</li> <li>・これまで町が官民連携等を通じて培った町民・地域住民と町内外様々な人との交流を一層推進・定着させるためのリアルな場の不足</li> </ul>

	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	町内遊休資産や観光拠点・資源等を活用した賑わい・中心地づくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア898*を中心とした地域内外様々な人々の交流活動を更に充実させるため、町主要部に位置する町有資産、町内の遊休資産、駅やコミュニティスペース、空き家、観光拠点・資源等を有効活用し、町内外の企業や住民等の交流・活動拠点を整備。</li> <li>※誰でも自由に様々な用途で利用できるコミュニティ・イベントスペース。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シェアリング(町有資産や公共施設の遊休スペースをシェアする事業)</li> <li>・ZEBなどカーボンニュートラルを意識した施設整備</li> <li>・公共施設集約化</li> </ul>
スマート	官民連携・DXを通じたスマートな賑わい・中心地づくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動拠点でのオフラインでの交流促進・官民連携等を通じた新たなコミュニティ形成に加え、「人に優しいテクノロジー」を積極的に活用し、オンラインでも交流・まちづくりに参加できる環境を構築する(利用者の環境に依存せず、簡単にアクセスが可能なクラウドサービス等を活用する)。</li> <li>・中心地から町内へのウォーキングコース整備とデジタル技術を活用した健康増進(日本一歩きたくなる町推進)</li> <li>・EVやスマートモビリティなどを活用し、町内外の人々の誰もが利用できる地域交通を確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5G</li> <li>・パブリッククラウド</li> <li>・ウェアラブル端末(上記3技術を組み合わせたオンライン交流環境構築)</li> <li>・EdTech</li> <li>・自動運転</li> <li>・スマートモビリティ</li> <li>・シェアサイクル</li> </ul>
レジリエント	安全安心な賑わい・中心地づくり	中期 (5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心に交流・活動拠点が利用できるよう、それらの拠点などで再エネ、EV車や蓄電池を活用し、ゼロカーボン実現と災害時の電源確保等、防災への備えを図りながら、賑わい・中心地づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄電池</li> <li>・EVシェア</li> <li>・小水力発電</li> </ul>

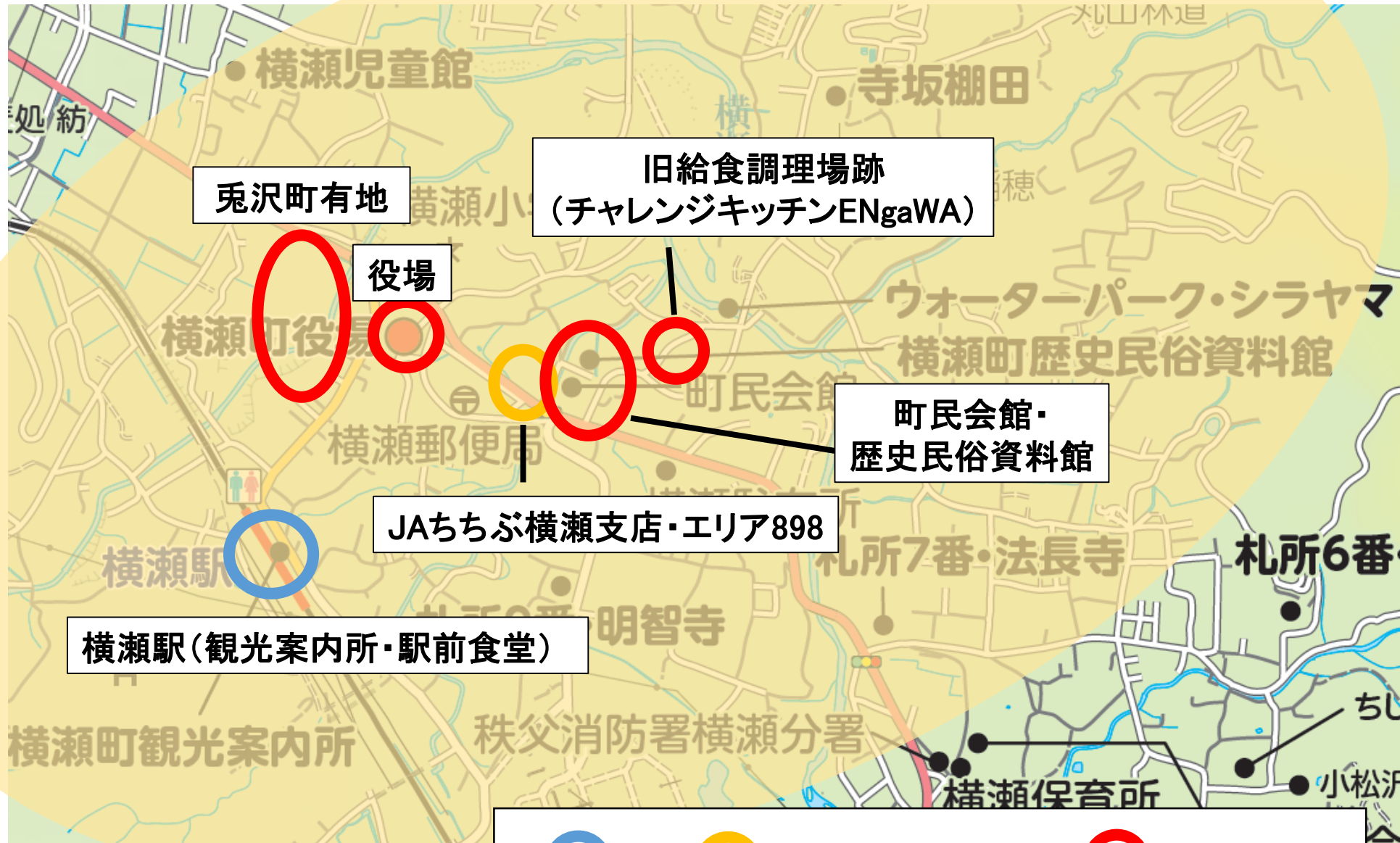






## 横瀬駅周辺の拡大図面

# コンパクトな町の中心地づくり



横瀬駅(観光案内所・駅前食堂)

兔沢町有地

旧給食調理場跡  
(チャレンジキッチンENgaWA)

役場

町民会館・  
歴史民俗資料館

JAちちぶ横瀬支店・エリア898

Legend for the map:

-  : 駅
-  : コミュニティスペース等
-  : 主な町有施設



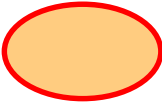
美里 Super Town プロジェクト

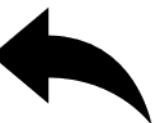
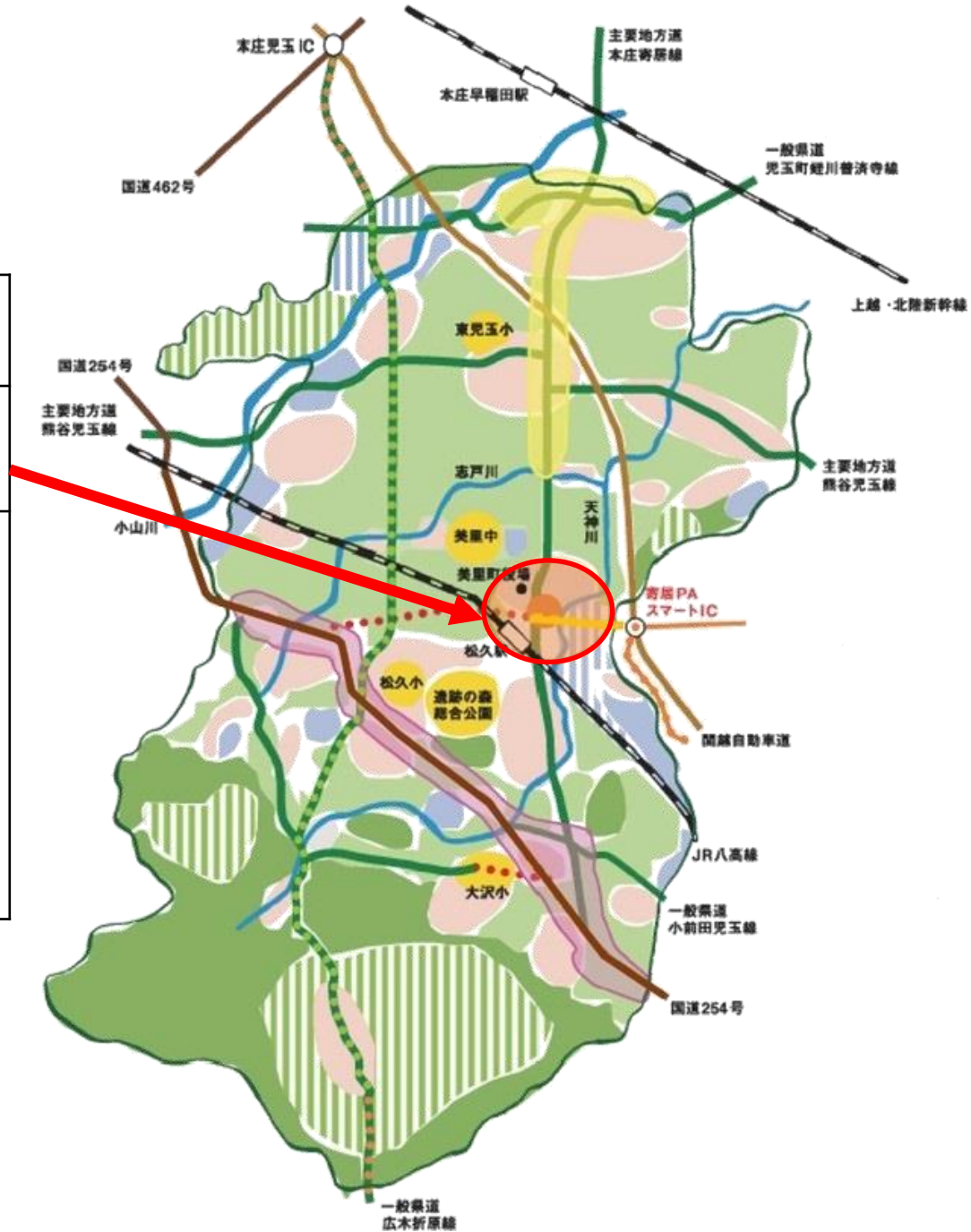
概要	スマートICによる新たなポテンシャルを活かした生活・経済活動の中心となる機能の集約により、町民の生活と自然環境が共生したコンパクトで“美力”的な拠点の構築を目指す。 ※「美力(みりよく)」とは、美里町の魅力を意味する造語である。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、約11,000人の人口が20年後の2040年には8,400人まで減少。また、高齢化も更に進む。</li> <li>・商店街や市街地がないため、町民の生活・消費活動が町外に依存している。</li> <li>・自然環境や観光資源は多彩だが、活かされてない。</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	都市機能の集積による生活利便性の向上及び賑わいの創出 町内消費の拡大	中期 (5年)	買物や食事、医療、交流等の日常生活に必要な都市機能の集約を図る。 官民連携による地域活性化施設の整備やテレワークの推進により、地域経済の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活機能(商業・医療・福祉)の民間誘導</li> <li>・官民連携の体制づくり</li> <li>・地域資源の活用</li> </ul>
スマート	自動運転技術を活用したスクールバスの運行と交通弱者の移動の確保	長期 (10年)	スマート技術を活用したスクールバスの運行や、中心拠点地区と各集落間のスムーズな移動が可能となる体制を構築する。	・モビリティサービス(自動運転・EV等)
	町民の健康づくり・データ構築	短期 (3年)	健幸ポイント事業に合わせて、ICTおよびSIBを活用したケア体制を構築する(遠隔医療等)。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスケア</li> <li>・遠隔医療</li> </ul>
レジリエント	災害時でも途絶えない電源の確保	中期 (5年)	当地区の核となる地域活性化施設を防災拠点として活用し、災害時でも途切れない電源を確保し、災害に強い地域を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蓄電池</li> <li>・防災情報デジタル化</li> </ul>
	脱炭素社会に向けたエネルギーの地産地消	中期 (5年)	再生可能エネルギーによる地域新電力の導入や工業団地のエネルギー融通により脱炭素化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電・新電力</li> <li>・再生可能エネルギー</li> </ul>



# 第5次美里町総合振興計画 (令和3年度～7年度)より抜粋

## ■土地利用構想図

名称	まちづくり拠点地区(中心拠点)
凡例	
概要	スマートIC事業と併せて整備した接続道路を中心に、町の玄関口としての機能を最大限活かした地区を整備する。これにより、新たなひとの流れをつくる地区とする。



# 美里版スーパー拠点のイメージ(施策例)

## 官民連携

- ・民間誘導等により都市機能の集約を図る
- ・官民連携による地域マネジメントの構築
- ・サテライトオフィスの整備

## 地域産業活性化

- ・生活機能の集約・複合化
- ・直売所の農産物生産管理・顧客データの構築・農業者との共有
- ・ドローンによる農産物集荷



## モビリティ・サービス

- ・クリーンエネルギーを活用した自動運転(ラストワンマイルの交通手段)
- ・不便地域にドローンで即日配送



## ヘルスケア

- ・ミムリン健幸ポイント事業による町民の健康管理
- ・遠隔診療による地域包括医療



## スマート防災

- ・地域活性化拠点の防災機能の強化
- ・防災情報の通知(デジタルサイネージ)



## エネルギー循環

- ・ソーラーシェアリング、バイオマス燃料による再エネ導入
- ・地産地消のエネルギーマネジメント



## 推進体制

- 【(仮)美里スーパーシティ協議会の構築】
- ・美里町
  - ・埼玉県
  - ・地域内企業
  - ・地域活性化施設事業者
  - ・ヘルスケア事業者
  - ・次世代モビリティ事業者
  - ・情報通信事業者
  - ・電力事業者
  - ・コンサルタント(事務局)



スマートシティさいたまモデルの推進

概要	美園地区をさいたま市が目指す理想都市の縮図とするために、AI、IoT、データを活用することで、人と人をつながりであるコミュニティをしっかりと形成するとともに、住民等が抱える様々な社会課題を解決する生活支援サービスを提供することが可能なエコシステムを構築することで、定住・交流・関係人口の増加、市民生活の質の向上、地域経済の活性化、脱炭素化の促進を進める。			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さいたま市の人口の将来的な減少 ・地域コミュニティの形成</li> <li>・「超高齢社会」への突入と「生産年齢人口」の減少による経済規模の縮小への危惧</li> <li>・持続可能な成長・発展できるまちづくりの推進</li> </ul>			
	コンセプト(目的)	目標時期	検討したい取組(施策)	民間企業等の協力を得たい分野・内容
コンパクト	さいたま市が理想とする都市の縮図であるスマートシティのモデルの構築	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーバンデザインセンターみそのを拠点としたエリアマネジメントを地域コミュニティを形成しながら推進</li> <li>・スマートホーム・コミュニティにおけるコモンスペースの創出とコミュニティの形成</li> </ul>	モビリティ、健康、エネルギー、コミュニティ、データの5分野の知見
スマート	AIやIoT、データを活用した社会課題の解決	中期(5年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市OS(共通プラットフォームさいたま版)を活用した、交通やヘルスケアなどの生活支援サービスの提供(別添資料参照)</li> <li>・スマートフォンを活用したコミュニティの形成</li> </ul>	都市OSの推進支援、及びサポート支援
レジリエント	スマートホーム・コミュニティの整備	進行中	高気密高断熱、太陽光発電及び蓄電池等を活用した脱炭素化並びにコモンスペースを有し、電線地中化を実現した街区の整備	事業参画



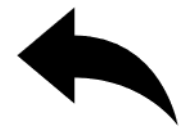
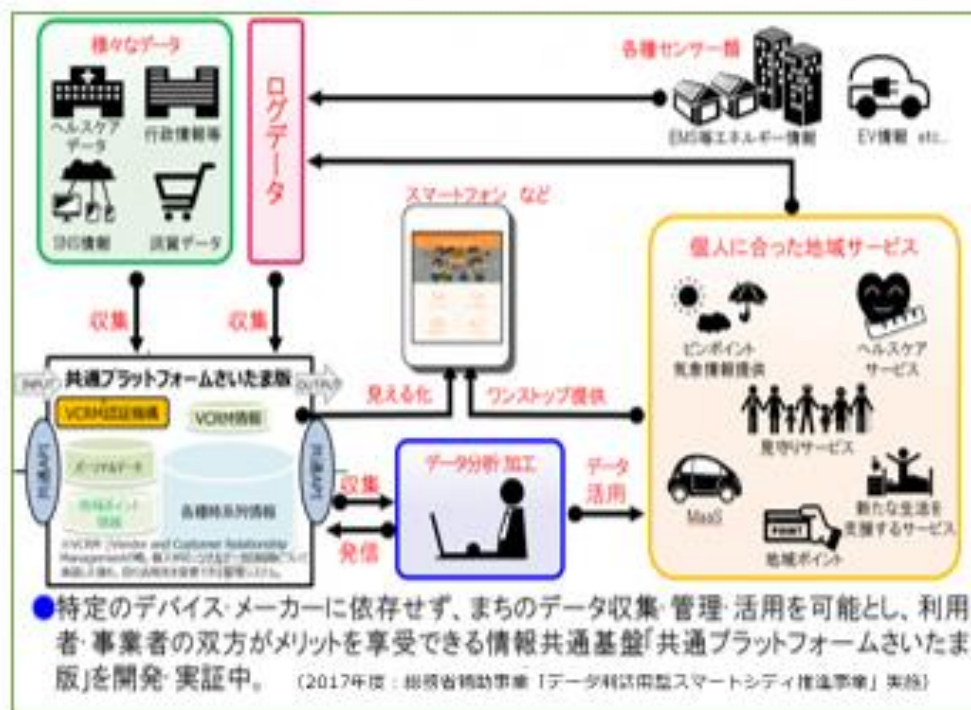
# さいたま市におけるスマートシティの取り組み



## 共通プラットフォーム さいたま版

### ◆都市OS「共通プラットフォームさいたま版」の特長

#### 様々なデータの運用・連携が可能





## 共通プラットフォームさいたま版 共用による自治体間連携

### 他自治体と共通プラットフォームさいたま版の 共用を目指します

#### PF共用のメリット

##### ◆コスト減

整備済みの  
プラットフォームで

- ・1からプラットフォームを整備する必要なし
- ・維持管理費用の軽減

##### ◆「安心」

- ・個人情報やデータ利活用に関する規約の整備
- ・ノウハウの提供

さいたま市で  
実証済み

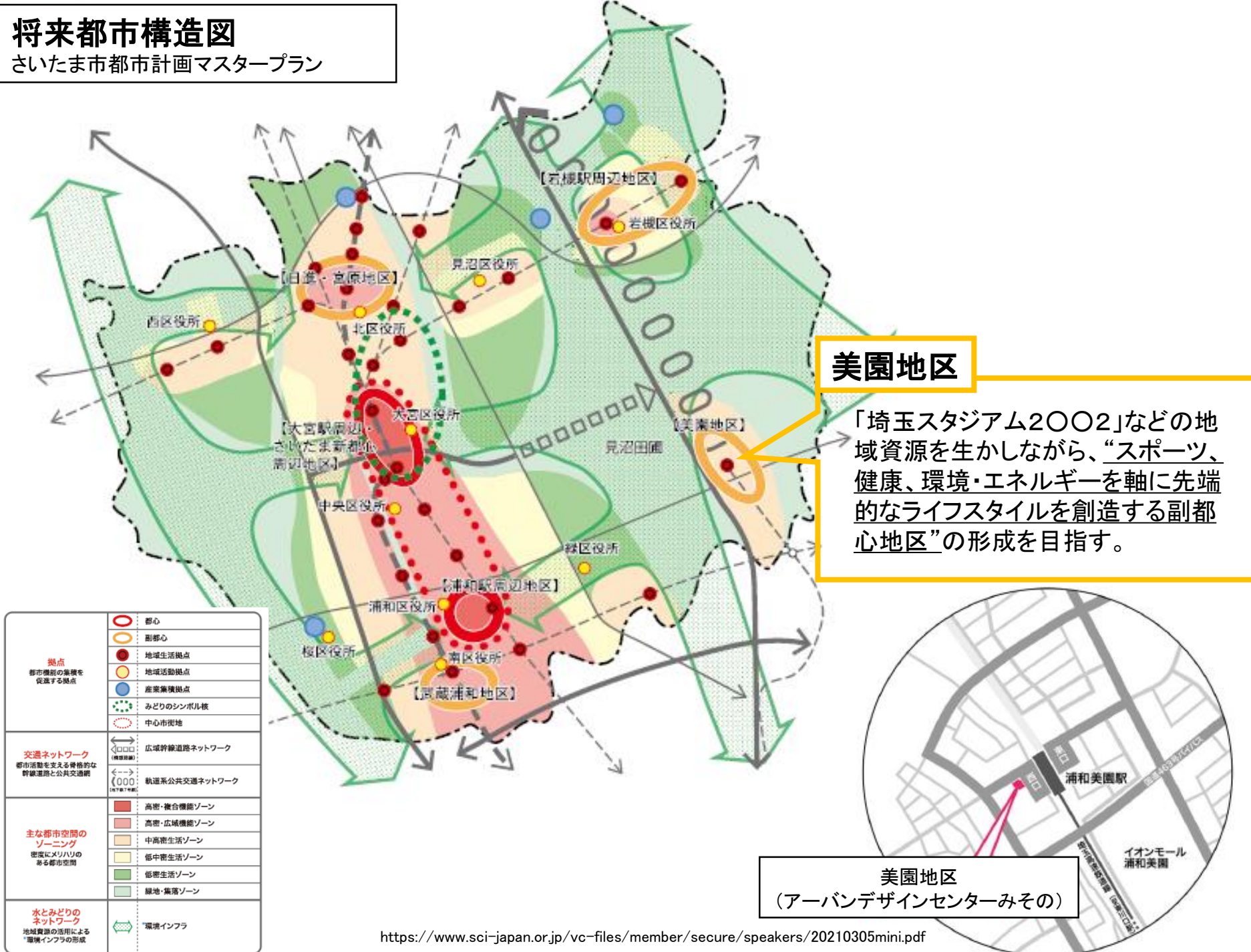
##### ◆サービスも共用

サービスの横展開により、他自治体のサービスも利用可能



# 将来都市構造図

さいたま市都市計画マスタープラン





<美園地区の特徴>

- 2001年に土地区画整理事業が認可され市街地形成が開始した“新しいまち”
- 市内でも高い人口増加率
- 特に子育て世帯の流入が顕著(約79%が子育て世帯)

➡ 美園地区を目指す理想都市の縮図へ

スマートホーム・コミュニティ



# みその都市デザイン方針: 美園地区が目指すべき都市デザインの方向性

(H29.4、みその都市デザイン協議会)

## 都市デザインの方針

新価値創造都市	方針1	サッカー観戦者などの来街者をもてなすホスピタリティある環境と、日常的な賑わい・交流を創出する都市機能や活動を誘導しながら、市の副都心に相応しい都市環境を形成する。
多世代健康都市	方針2	安心・安全で心地よい居住空間と、公共交通・歩行者・自転車を中心とした交通環境ネットワークを整えながら、健康を育み、スポーツ・レクリエーションに親しみやすい都市環境を形成する。
次世代環境都市	方針3	見沼田園や綾瀬川水系につながるみどりの目節を形成しながら、安全・快適で落ち着いた雰囲気の良い街並みを誘導し、低炭素・循環型を持続可能な都市環境を形成する。

### 基本理念

都市デザイン方針図(拠点と都市軸の方針)



### 拠点

- 都市核(浦和美園駅周辺)**
  - 美園を象徴する緑豊かで品格ある空間にする
  - 副都心として多様な都市活動を支える快適・便利・賑わいのある空間をつくる
- 埼玉スタジアム2002公園**
  - 健康・スポーツに取組み、緑の拠点となる公園にする
  - 世界に誇れる快適なスタジアム環境をつくる
- 綾瀬川・調節池**
  - 治水機能を維持しながら、健康を育みスポーツに親しみやすい親水空間や憩いの場づくりをする
- 学校・公園**
  - 緑豊かで安心安全な居住空間の核となるような環境をつくる
- 特徴的な居住エリア**
  - 環境・エネルギー・自然・健康等をテーマに美園地区のモデルとなる居住エリアをつくる

### 都市軸

- 都市骨格軸**
  - 緑豊かで品格のある景観と快適な歩行環境・自転車走行環境を形成する
  - 都市間交通の中心となり、街の入り口を演出する
- 拠点アクセス軸**
  - 拠点間を結び都市生活の中心となる緑豊かで歩行者優先環境をつくる
  - 特に都市核と埼玉スタジアムを結ぶ軸は、大勢のサポーター通行に対応し、サッカーの街に相応しい緑豊かなスタジアム参道<sup>①</sup>を形成する
- オープンスペース・自然環境軸**
  - 緑と水の拠点を連続させ、健康を育みスポーツに親しみやすい都市環境を形成する
  - イベント開催などによる賑わい・交流の場をつくる

## 都市デザインの戦略

### 戦略の組み立てイメージ

- ① 主要な拠点・都市軸上に質の高い空間を形成する
- ② 空間上に人の活動やコミュニティの「場」を生み出す
- ③ 地区全体の「場」をネットワーク化する



戦略1	緑豊かな副都心の顔と骨格をつくる
戦略2	サッカー文化の薫る街のシンボル空間をつくる
戦略3	健康を育む緑と水の拠点を連続させる
戦略4	安心安全・快適な居住環境をネットワークする
戦略5	都市デザインをマネジメントする

都市デザイン戦略図

